



レインボー



URL

++http://www.ishikawa-c.ed.jp/~ushouh/yasuragi/++

TEL・FAX

0767-22-0345

平成25年度を迎えて一ヶ月余りが過ぎました。やすらぎ羽咋教室も新しいスタッフを迎え、装いも新たに学校へ行きたくても行けない児童・生徒やその保護者・先生方の支援を行っております。

今年度は金沢大学の村松朋子先生をスーパーバイザーとしてお迎えし、より充実した支援ができるようスタッフ一同皆様方のお力になれるよう頑張りたいと思います。

『やすらぎ羽咋教室』利用案内

「やすらぎ羽咋教室」は、石川県が設置している**教育支援センター**です。

やすらぎ羽咋教室の詳細については、「やすらぎ羽咋」で検索して、ホームページをご覧ください。

教育支援センターとは…

ちょっと学校を離れてゆっくり心と体を休み
時には仲間と語り合ったりひとりで自分を見つめてみたい
美しい自然と触れ合ったり出来そうなことはなんでも
やってみて自分のしたいことを見つけ
自分の出来る道を歩いていけるように支援するところです

新室長からのご挨拶

室長 平 聖一郎

やすらぎ羽咋教室は、平成8年4月不登校児童生徒の早期発見・早期対応を図るため、学校・家庭・教育支援センター・関係機関が連携した地域ぐるみでの支援、また、学校に登校できなくなった児童・生徒に対する居場所を確保し、生活リズムを取り戻し、学力の補充・体験活動を通して学校や社会活動に適應する力を育てることなどを支援する目的で設立され、今年度で開所18年目を迎えます。

今年度は、スーパーバイザーの先生をはじめフレッシュで経験豊かなスタッフが相談業務に当たっております。不登校等の問題で悩んでおられる児童・生徒の皆さん、保護者の皆さん、先生方は当所までお気軽にご相談下さい。

平成25年度スタッフ紹介

室長	平	聖一郎（羽松高校 校長）
副室長	越 野	裕美子（羽松高校 教頭）
指導員	国 門	源 量
指導員	神 佐	博
相談員	宮 本	隆
相談員	松 井	廣
スーパーバイザー	村 松	朋 子（臨床心理士）
研修員	東	由 紀（前期 羽咋小）
研修員	横 町	さゆり（後期 志雄小）

スーパーバイザー相談日のご案内

当教室では専門家との相談の機会を設け、子どもたちの健やかな成長を願っています。不登校などでお悩みの方は、是非ご活用ください。

◇スーパーバイザー：村松 朋子 先生

金沢大学助教 臨床心理士

◇対 象：児童生徒・保護者・教職員

◇開催日時：相談日は原則として午後です。

<下記の一覧を参照>

◇受 付：相談を希望される方は、やすらぎ羽咋教室までご連絡ください。

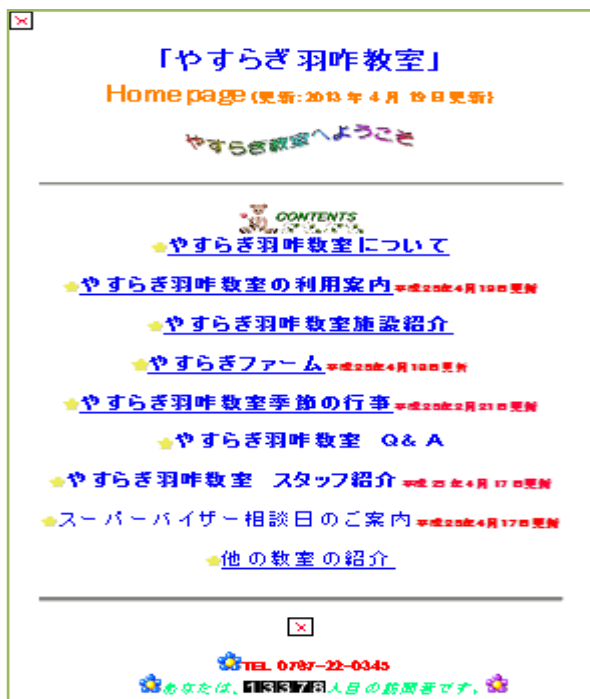
希望が多い場合、相談時間については調整しますので、ご了承ください。

TEL&FAX：(0767) 22-0345

【平成25年度前期相談予定日】

- ① 4月25日(木) 13:00～16:30
- ② 5月23日(木) 13:00～16:30
- ③ 6月20日(木) 13:00～16:30
- ④ 7月18日(木) 13:00～16:30
- ⑤ 9月12日(木) 13:00～16:30

やすらぎ羽咋教室ホームページ



○ 4月の教育相談状況

	相談のべ回数
来所相談	24 回
出張相談	3 回
電話相談	10 回
合 計	37 回

相談内容は、中・高校生の不登校に関するものが主であり、相談者は保護者及び本人、在籍校の教員による相談であった。



☆ファーム (4/5) 種まき

今年度も「やすらぎファーム」での体験活動を計画しています。その一環として、野菜の種をポットにまき、ビニールハウスに置きました。

まいた種 カボチャ3種類、トマト、ミニトマト、キャベツ、オクラ、キュウリ、ナス、コールラビ

☆ファーム (4/12) 芽が出始める

まいた種のほとんどが発芽しました。



☆ファーム (5/2) カボチャなどの苗植

種から始めた野菜作りで、カボチャやキャベツが植え時期となり、スタッフで定植しました。



☆ファーム (5/8)

通室生による水やり

ファームには、カボチャやトマト、キャベツ、ナス、ジャガイモ、サツマイモ、キュウリなど夏野菜がたくさん植えられました。これからは管理が大変です。

さっそく水やり体験です。



研修を始めるにあたって

前期研修員 東 由紀

県教育センターでの1ヶ月の研修を終えて、やすらぎ羽咋教室へ来ています。

やすらぎ教室とは『ちょっと学校を離れてゆっくり心と体を休め、時には仲間と語り合ったり、一人で自分を見つめてみたり、美しい自然と触れ合ったり、出来そうなことはなんでもやってみて、自分のしたいことを見つけ、自分の出来る道を歩いていける』ように支援するところです。

子どもさんと同じ目線に立ち、「耳で聞く」のではなく「心で聴く」ことを大切にしながら、一番の対応を模索し、一人ひとりの個性と向き合い続け、少しでも前向きに歩み出せるように支援していききたいと思います。

“ゴールはあくまで学校。ここは中継地。でも、本人にとって必要な時期だもの” 常に温かいまなざしで、子どもさんに関わっていききたいと思います。

どうぞ、よろしくお願い致します。